

TYPE OF  
INDUSTRY

飲料メーカーとして独自路線を歩んでいるハルナグループホールディングス（群馬県高崎市）。消費者一人ひとりのニーズにあった商品を企画・開発する経営方針から、最小在庫管理単位（SKU）換算で年間6000を超え、創業30年を迎えている。創業30年を迎えた2026年に商号を変え、社名から「ピバレッジ（飲料）」の文字を外した。狙いはどこにあるのか。青木麻生社長に聞いた。

「国内の飲料市場の動向をうかがいます。」

「各種の調査レポートを参考に当社が調べ

## ハルナグループ、「食」意識

### 創業30年 商号変更 飲料の文字外す



社長 青木麻生氏

生活・建設・運輸・医療

## PB増やし新市場開拓

たところ、25年は前年で少し落ち着いた。伸象を薄めたように見え、長している」

比2%減、26年は同じ

%減少する見通し。し

かし、プライベートプ

ランド（PB）は同4%

増える見通しだ。消費

者の節約志向からPB

は成長している。た

ミネラルウォーターは

災害による備蓄の反動

ます。狙いは。

「5-10年先を見据

えて「食」を意識した

飲料を中心に成長させ

ていく方針は変わらな

いが、新規事業として

ワインの輸入販売のほ

か、海外ではフランス

・パリに日本茶とお菓

子を提供する店を開業

した。ASEAN（東

南アジア諸国連合）で

は紅茶に加え、チョコ

レートやグミなどの食

品販売も立ち上げ、伸

る「One to O

「飲料の容器寸法が

多様化しているため、

SKU換算で年600

0種類の商品を企画し

ている。工場での生

は少ない品種を大量

産するやり方が良い

が、当社の強みは一

ひとりのニーズに合

た商品を企画・開発

力を入れていきたい

「飲料を軸に事業領域を広げ

と同時に、国内の人口減少を

頭に、健康志向が高まるASE

AN市場も開拓する。創業30

年を節目に次の成長への布石を

打っているが、青木社長は「他

社が手がけていない分野を開拓

する」方針のため、歩はゆっくりだが着実に

成長するだろう。（群馬支局長・安久井建也）

### 記者の目

#### 他社が手がけない分野狙う

飲料を軸に事業領域を広げると同時に、国内の人口減少を念頭に、健康志向が高まるASEAN市場も開拓する。創業30年を節目に次の成長への布石を打っているが、青木社長は「他社が手がけていない分野を開拓する」方針のため、歩はゆっくりだが着実に成長するだろう。（群馬支局長・安久井建也）